

母親クラブ
 <対象>地域の子どもの幸せを願う
 みなさん
 ※令和3年度は NICONICO

(ねらい)
 ・児童館と連携をとり、サークル活動を行う中で親子の交流と親睦を図りつつ、
 育児の楽しさを感じる。
 ・活動を通して、児童の見守りをする。



(成果)
 ・児童館に居場所ができたことで、普段なかなか話せない悩みやストレスを発散できる仲間を作ることができた。
 ・サークル活動や体操を行うことで、育児に対して前向きに取り組むことができ、そして子どもたちの健全育成の推進を図ることができた。

ボランティアのみなさん
 ・おもちゃのお医者さん(毎月第3土曜日 午後1時から3時)
 ・将棋の日(毎週木、金曜日 午後3時30分～4時30分)
 ・更生保護女性会のみなさん(母親クラブの講座のお手伝い)
 ・手作りおもちゃの先生
 ・廃材や野菜の苗を寄付してくださる地域のみなさん

いつも廃材や苗を
 ありがとうございます



おもちゃのお医者さん



将棋の先生



手作りおもちゃの先生



更生保護女性会
 のみなさん



たくさんの方に児童館運営を支えていただき感謝しています。みなさんに親しんでもらえる児童館になるようにしていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。右のQRコードから石浜児童館の様子がご覧いただけます。ぜひ見てください!!



いしはまじどうかん

令和2年度 活動報告概要版



石浜児童館指導目標

- ・子どもが生活や遊びに主体的に取り組む。
- ・自分の思いを言葉で相手に伝えたり、子ども同士で話し合ったりする。
- ・子ども達が自分で善悪、危険を考えながら生活したり遊んだりする。
- ・保護者が子育ての相談や親子同士の交流ができるよう、地域の子育て支援の場となる。
- ・乳幼児の発達を促す。



児童クラブ

<対象>町内の小学校に在学する小学校1～6年生の児童、その他町長が認める児童で昼間家庭に面倒をみる人がいないことが日常の児童

一般利用

<対象>乳幼児、小学生から高齢者まで誰でも自由に利用できる。 但し、乳幼児は保護者が付き添う

(ねらい)

- ・自分で考えて遊んだり、作る喜び、楽しさを感じたりする
- ・安心して失敗し、何度も試して遊ぶ
- ・思い通りにならない自然の中で、自分で気持ちに折り合いをつけながら遊ぶ
- ・自分たちで交渉したり話し合ったりし、友達と遊びを作り出していく
- ・好きな遊びを見つけ、のびのび遊ぶ

子ども達がやりたい遊びを自由にできるように環境を整え、大人からの遊びの提供を減らす

大人がルールを作ること、遊びの内容や時間を決めることをやめ、子どもと相談する

取り組みの中で職員が気を付けたこと

自分のやりたい遊びができるように自分で大人や友達に場所や、遊びの内容を交渉することを手伝う

戸外へ出て身体を動かしたり自然の中で遊べたりできる機会を多く持てるようにし、色々なことを感じられるようにする

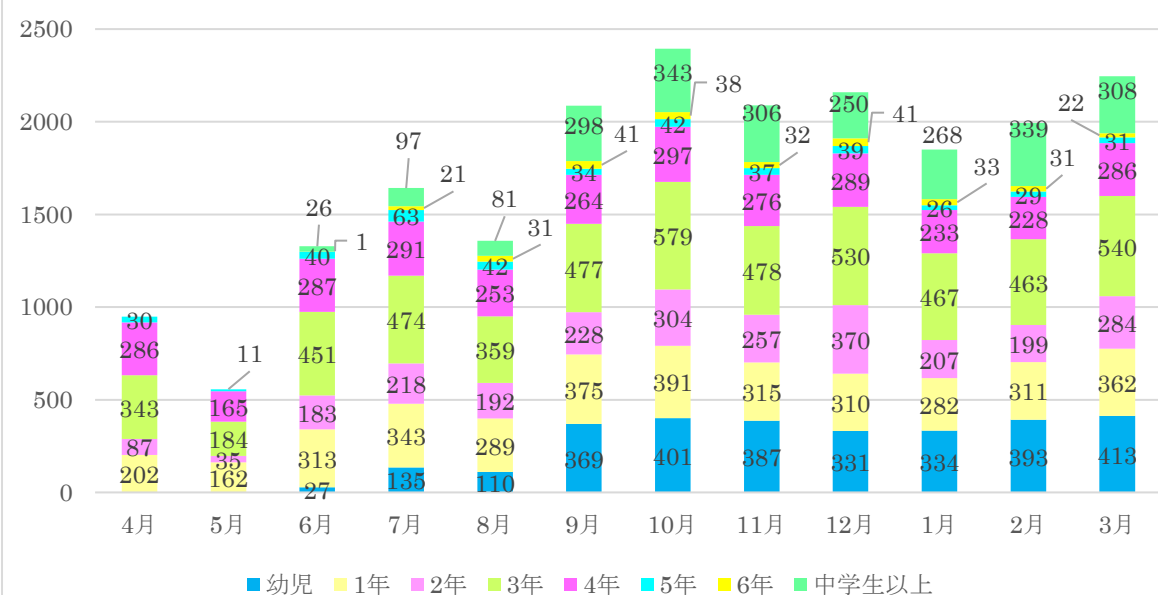
(子どもの変化)

- ・大人に、〇〇していい？と許可を求めるのではなく、遊びたいことや必要なものを、要望することが増えた。
- ・遊びは「てんか」が中心で、「てんか」の順番を待つ間に他のことをしている子が多かったが、「てんか」をしたいという子が激減し、他の遊びを見つけて遊べる子が増えた。「てんか」をやらない日もでてきた。
- ・作られたおもちゃで遊ぶ子が少なくなり、遊びに必要なものを自分で作り、何度も手直ししながら使いやすいように考える子が増えた。
- ・目的を持って、児童館に遊びにくる子が増えた。

(今後の課題と改善点)

- ・職員の知識不足のため、ねらいを意識せず大人の都合で関わってしまうことがよくあった。職員の資質向上のため、職場研修や職員会議の見直しが必要である。
- ・自然の中で遊ぶ機会が多く持てず、感じる経験が十分でなかった。児童館でできる自然体験は何か、どのようにしたら実現できるかが明確でなかった。児童館でできる取り組みを明確にしておく必要がある。
- ・子ども同士で遊びを作り出したり、自由に考えて作ったりすることができるようになってきている。しかし、楽しければなんでもいいという行動、用具や遊具の使い方の粗雑さが目立つ。物を大切に扱うことや、共同の場所で過ごすことの認識を、外発的動機付け（行動の要因が評価、賞罰、強制等の人為的刺激）でなく育てていくにはどうしたらいいか、考えていく必要がある

石浜児童館年間利用者数



ひよこの日

<対象>0歳から2歳半までの乳幼児とその保護者
こっこの日

<対象>2歳半から就園前までの幼児とその保護者
※令和3年度はこあらの日

遊びを提供されることに慣れることなく、子どもが主体的に遊べる環境を整える

「知る」より、「感じる」「疑問を持つ」経験が十分にできるようにする

出来る出来ないを気にせず、わが子の良いところを見つけられるように関わる

リズム遊びのねらいを保護者に伝え、継続して行う意味を理解してもらう

(親子の変化)

- ・リズムに入れなかったり、一緒に散歩に行けなかったりした子が、繰り返し行ってきたことでみんなの中に入って一緒に楽しめるようになってきた。
- ・絶えず走っていた子が、音を聞き分けたり、音に合わせて止まったりすることが増えた。
- ・自分のしたい遊びを自分から探すようになってきた。
- ・「ここではやらなくても、家ではやる。見ていないようでみんなのことをちゃんと見ていることが分かった。」等と、今まで子どもの欠点ばかり気になっていた保護者が、わが子のいいところを見つけることができた。

(ねらい)

- ・自然の中で遊び、たくさんを感じ疑問をもつ
- ・リズム遊びを親子で楽しみながら、子どもの全身発達を促す
- ・親子での触れ合いを楽しむ
- ・親子ともに仲間づくりをする
- ・好きな遊びを見つけ、思い切り遊ぶ

子どもや保護者が多様性を受け入れられるように話したり関わったりする

(今後の課題と改善点)

- ・リズム遊びについて職員間で理解度に差があり、適切な援助ができないことがあった。全職員が最低限は共通理解できるように伝える必要がある。
- ・コロナ対策で密を避けるように考えてきたが、「密を避けて子どもは育たない。」と改めて感じた。コロナ感染症は怖いですが、子どもの発達を保障するために何を大切に子どもと関わっていかなくてはならないか、今一度きちんと考える必要がある。

はなはなベビィ

<対象>0歳児の親子

どんなことも否定することなく保護者の気持ちを受け止め寄り添う

親同士がつながりを持てるようにサポートする

発達の流れを話す中で、保護者が月齢の発達より遅いことに不安にならないようにし、不安を感じているようであれば、発達を促す方法を具体的に伝える

(親子の変化)

- ・相談を受けることが増えた。
- ・はなはなベビィの日以外でも、来館して下さるようになった。

(今後の課題と改善点)

- ・話だけでは伝わりにくかったり、すぐに忘れてしまったりする発達の話。困ったときに生かすことができるように、紙面にするなどの工夫をしていく必要がある。
- ・大人がマスクをしているときと、外して関わるときの子どもの表情や反応が全く違う。発達が著しい乳児期にマスクを着けて関わる時間が増えることで、子どもの発達に影響すると感じる。表情がよく見えるフェイスシールドの使用を検討するなどの対策が必要である。
- ・コロナ禍、家庭から出てこれない方への支援をどうしていくか、具体的に考えていかなければならない。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ひよこの日	4回 45組	5回 65組	4回 52組	3回 44組	4回 53組	4回 58組	2回 32組
こっこの日	4回 44組	4回 39組	3回 36組	4回 40組	3回 29組	3回 33組	4回 64組
はなはなベビィ	5回 24組	4回 20組	4回 23組	3回 18組	3回 27組	4回 32組	3回 36組

コロナウイルス感染症拡大防止のため9月から開始

6月15日から一般来館が始まりました。
コロナウイルス感染症拡大防止のため、